



部門別事業報告

VII 環境調査

VIII 母子保健

IX 健康教育

X 結核予防

XI 諸行事

環境調査

作業環境測定は、有害物質の濃度や有害エネルギーなどの物理量を測定し作業環境の評価を行うもので、環境改善のための工学的対策を講ずるための重要な情報となる。種々の有害要因を減少させ、作業環境を適正に保ち、働く人々の健康障害を防止するための作業環境管理の基本となるものである。また、公共の建築物や学校などにおける揮発性有機化合物等の測定や、ダニ又はアレルゲン検査、公衆浴場などのレジオネラ属菌検査は化学物質や細菌等により健康を害することがないように管理が求められている。

実施状況

作業環境測定（労働安全衛生法第65条によるもの又は準ずる測定）を実施した事業場は延べ477事業場で、平成17年度より9事業場の増加であった。延単位作業場（1,597）の管理区分の内訳は、第1管理区分が、1,126箇所（70.5%）、第2管理区分が198箇所（12.4%）、第3管理区分が273箇所（17.1%）である。第2・第3管理区分を合わせた473箇所（29.5%）は、作業方法の改善や工学的対策などの作業環境改善が必要となる。測定項目別では粉じんと騒音の第2・第3管理区分の割合が高くなっており、これまでと同様の傾向が見られる（表2）。

作業環境測定以外の環境測定では、室内空気環境中の揮発性有機化合物（VOC）や石綿粉じん測定、学校衛生環境基準によるダニまたはアレルゲン検査、公衆浴場等のレジオネラ菌検査を実施した。

作業環境測定における主な採取・分析方法

対象項目	採取方法	分析方法
有機溶剤	固体捕集法	ガスクロマトグラフ法
	検知管法	
粉じん	相対濃度指示方法	
	ろ過捕集法	重量分析法
金属	ろ過捕集法	原子吸光光度法
	液体捕集法	
特定化学物質	ろ過捕集法	重量分析法、
	検知管法	液体クロマトグラフ法
	液体捕集法	吸光光度法

表1 管理区分と管理区分に応じた講ずべき措置

（安衛法第65条の2第1項）

管理区分	作業場の状態	講ずべき措置
第1管理区分	当該単位作業場所のほとんど(95%以上)の場所で気中有害物質の濃度が管理濃度を超えない状態	現在の管理の継続的維持に努める
第2管理区分	当該単位作業場所の気中有害物平均が管理濃度を超えない状態	施設、設備、作業工程又は作業方法の点検を行い、その結果に基づき、作業環境を改善するため必要な措置を講ずるよう努める
第3管理区分	当該単位作業場所の気中有害物質平均が管理濃度を超える状態	①施設、設備、作業工程又は作業方法の点検を行い、その結果に基づき、作業環境を改善するため必要な措置を講ずる ②有効な呼吸用保護具の使用 ③健康診断の実施その他労働者の健康の保持を図るため必要な措置を講ずる

表2 測定件数・項目別事業場数・単位作業場所数

()内は%

区 分 (測定項目)	測定件数 * 1	測定実施事業 場延数* 2	延単位作業 場所数* 3	延単位作業場所の管理区分内訳* 4		
				第1管理区分	第2管理区分	第3管理区分
計	13,411	477	1,597	1,126 (70.5)	198 (12.4)	273 (17.1)
粉じん(石綿を含む)	3,848	164	456	279 (61.2)	50 (11.0)	127 (27.9)
特定化学物質	1,111	105	154	136 (88.3)	8 (5.2)	10 (6.5)
金 属	345	31	52	48 (92.3)	3 (5.8)	1 (1.9)
有機溶剤	4,830	287	707	599 (84.7)	66 (9.3)	42 (5.9)
騒 音	3,175	47	228	64 (28.1)	71 (31.1)	93 (41.8)
その他* 5	102					

* 1 : 作業環境測定の結果の評価等に用いた測定点総数(その他の項目を除く)

* 2 : 測定項目ごとの実施事業場延数(総数は1項目以上の実施事業場延数)

* 3 : 作業環境測定結果の評価を実施した延単位作業場所の項目ごとの場所数(単位作業場所:作業環境測定結果の及ぶ範囲)

* 4 : 各項目における管理区分ごとの単位作業場所数及び割合

* 5 : 評価対象外・分析のみ等

表3 作業環境測定以外の環境測定実績

名 称	根拠となる法令等	物質名等	測定件数
計			250
揮発性有機化合物(VOC) の室内空気環境測定	官庁営繕部における平成15年 度からのホルムアルデヒド等 の室内空気中の化学物質の抑 制に関する措置について	ホルムアルデヒド, アセトアルデヒド, トルエン, キシレン, エチルベンゼン, スチレン	77
室内空気環境中の石綿測定	学校衛生環境の基準	ホルムアルデヒド, トルエン, キシレン, p-ジクロロベンゼン	100
ダニまたはダニアレルゲン検査	学校衛生環境の基準	石綿粉じん ダニアレルゲン	3 52
レジオネラ属菌検査	公衆浴場法および同法施行条 例, 旅館業法および同法施行 条例に基づく検査	浴槽水中のレジオネラ属菌	18

母子保健

赤ちゃんの病気の中には、新生児期のうちに発見し治療を行うことで心身障害の発生を防止し、命の危険を回避することができるものがある。当協会では、岩手県の委託を受け6つの病気を対象とした先天性代謝異常検査の実施と、岩手県医師会の委託を受けて胆道閉鎖症マススクリーニング検査結果の集計を行っている。いずれも早期発見・早期治療を目的としたものである。

1. 先天性代謝異常検査

実施状況

先天性代謝異常検査は、スクリーニング検査を行い、その値により異常と要再採血、要精密検査の判定を行っている。平成18年8月から再採血検体の検査対象項目が変更になり、どの項目で要再採血と判定されても全項目を再検査することに改められた。この改正前後の集計を表1と表2-1、表2-2に示した。

平成18年度の初回検査人数は11,666人、要再採血と判定されたのはアミノ酸代謝異常10人、ガラクトース血症136人、先天性副腎過形成症90人、先天性甲状腺機能低下症108人であった。再採血実施率は97%以上であった。

スクリーニング時に要精密検査と判定された者、及び再採血後要精密検査と判定された者を合わせると精密検査対象者はアミノ酸代謝異常2人、ガラクトース血症11人、先天性副腎過形成症17人、先天性甲状腺機能低下症10人であった。

方法

生後4～6日の間に足の裏（踵）から極少量の血液を採取し、アミノ酸代謝異常であるフェニルケトン尿症・楓糖尿症・ホモシスチン尿症とガラクトース血症、先天性副腎過形成症、先天性甲状腺機能低下症の6つの病気について次の方法によって検査を実施した。

アミノ酸代謝異常：高速液体クロマトグラフィー
 ガラクトース血症：ガラクトース脱水素酵素・マイクロプレート法
 先天性副腎過形成症：酵素免疫測定法
 先天性甲状腺機能低下症：酵素免疫測定法

表1 項目別検査成績（H18/4～7月の初回および再採血）

（ ）内は%

内 訳	初回採血検体検査人数 3,897			
	アミノ酸代謝異常	ガラクトース血症	先天性副腎過形成症	先天性甲状腺機能低下症
正常	3,894 (99.91)	3,852 (98.84)	3,883 (99.64)	3,866 (99.20)
要再採血	2 (0.06)	44 (1.13)	14 (0.34)	30 (0.77)
要精密検査	1 (0.03)	1 (0.03)	0	1 (0.03)
再採血検体検査人数	2 (100.00)	44 (100.00)	14 (100.00)	30 (100.00)
正常	2 (100.00)	41 (93.18)	10 (71.43)	27 (90.00)
要精密検査	0	3 (6.82)	4 (28.57)	3 (10.00)

表2-1 項目別検査成績 (H18/8～H19/3月の初回および再採血)

() 内は%

内 訳	初回採血検体検査人数 7,769			
	アミノ酸代謝異常	ガラクトース血症	先天性副腎過形成症	先天性甲状腺機能低下症
正常	7,761 (99.90)	7,677 (98.82)	7,693 (99.02)	7,688 (98.96)
要再採血	8 (0.10)	92 (1.18)	76 (0.98)	78 (1.00)
要精密検査	0	0	0	3 (0.04)
再採血検体検査人数	8 (100.00)	92 (100.00)	75 (98.68)	76 (97.44)
正常	8 (100.00)	85 (92.39)	62 (82.67)	75 (98.68)
要精密検査	0	7 (7.61)	13 (17.33)	1 (1.32)

↓ ※項目の重複あり

表2-2 項目別検査成績 (H18/8～H19/3月の再採血および再々採血)

() 内は%

内 訳	再採血検体検査人数248			
	アミノ酸代謝異常	ガラクトース血症	先天性副腎過形成症	先天性甲状腺機能低下症
正常	246 (99.19)	241 (97.18)	235 (94.76)	239 (96.37)
要再々採血	2 ^{注)} (0.81)	0	0	8 (3.23)
要精密検査	0	7 (2.82)	13 (5.24)	1 (0.40)
再々採血検体検査人数	1 (50.00)	0	0	7 (87.50)
正常	0	0	0	5 (71.43)
要精密検査	1 (100.00)	0	0	2 (28.57)

注) 2人のうち1人は先天性甲状腺機能低下症で精密検査となったためアミノ酸の再々採血依頼はなし

2. 胆道閉鎖症マススクリーニング検査

実施状況

平成18年4月～19年3月までの出生児数は10,593人であった。胆道閉鎖症スクリーニング検査を受診した乳児は9,507人、受診率89.7%であった。一次スクリーニングの結果、13人が二次スクリーニングの対象となった。3次スクリーニングの対象となった児はいなかった。

胆道閉鎖症の発生率は出生7,900人に1人と言われている。スクリーニングは簡便な検査であり、早期に診断がなされ、生後60日以内に手術を受ければ良好な予後が期待される疾患である。

方法

保護者の方がお子さんの便の色を調べ、見本の色調と比較して用紙に記入し、1ヶ月健診の際に担当医師へ提出する。健診医が記載された便の色調を確認することにより、スクリーニングを実施する。

表3 検査成績

() 内は%

出生児数	10,593
検査人数	9,507(89.7)
1次スクリーニング陽性者	13
2次スクリーニング結果 〈人数〉	<ul style="list-style-type: none"> ・異常なし〈5〉 ・母乳性黄疸〈3〉 ・新生児肝炎症候群〈2〉 ・低体重児にて管理中〈1〉 ・記入間違い〈1〉 ・未回収〈1〉
3次スクリーニング対象者	0

健康教育

1. 健診の事後措置

■集団健診の対応

各団体が主催する事後指導会で、健診の結果説明や栄養指導等の依頼を受け対応した。

平成18年度の依頼数は、69団体306回であった。前年度より2団体242回の減少となった。最も減少したのは事業所部門における6団体229回であった。職種別にみると管理栄養士の対応が増えた。

表1 団体内訳

団体	団体数	回数
計	69	306
市町村	12	96
事業所	40	169
学校	17	41

表2 職種別内訳

職種	地域部門	産業部門	学校部門
計	96	169	41
保健師	50	109	1
管理栄養士	42	57	40
健康運動指導士	4	3	0

■一日人間ドックの対応

診察終了後、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。

平成18年度は、保健指導3,492人、栄養指導2,251人の実施であった。また、ミニ栄養講話も実施した。

■レディースドックの対応

診察終了後、保健師による個別相談を実施した。

平成18年度の実施数は143人であった。

■シニアドックの対応

後日、結果説明終了後希望者に対し、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。

平成18年度の実施数は、保健指導219人、栄養指導173人であった。

■労災保険二次健康診断の対応

平成13年4月1日より労災保険における二次健康診断等給付事業が施行されたのを受け、二次健康診断対象者へ保健指導を実施した。平成18年度は342人であった。

2. 定期健康相談事業

事業所が職員の健康管理・健康教育のために、日常の健康相談と健康診断の事後措置を外部の専門機関へ委託する。当協会はその受け皿として事業所と委託契約を締結し、保健師を定期的に派遣している。平成18年度は、3団体へ計67回派遣した。

事業内容：事業所職員の健康管理、健康教育

日常の健康相談、保健指導

健康診断の事後措置

必要に応じ職場の巡回、環境管理のためのアドバイス、衛生委員会への参加などを産業医、事業主、衛生管理者等と密接な連携のもとに行う。

3. 相談員派遣協力

平成18年度、岩手産業保健推進センターにおける産業保健相談業務（産業衛生工学）の担当としての派遣は40回であった。

4. 電話相談

平成18年度、当協会では実施している各種健診・検査等に関する相談や地域医療機関への情報提供、当協会に対する意見・要望等、766件について対応した。

表 団体内訳

団 体	件 数	主 な 内 容
計	766	
市町村	349	結果の意味・受診医療機関の選択
事業所	391	結果の意味・受診医療機関の選択
学 校	26	結果の意味

5. 講演会講師派遣協力

平成18年度は、52団体に対し261回にわたって講師の派遣協力を行った。

地域部門においてはウォーキング・転倒予防・介護予防といった内容で、健康運動指導士による講話が中心であった。

産業部門では、禁煙対策・ストレッチ・作業環境管理といった内容に沿って、保健師、健康運動指導士、労働衛生コンサルタントの派遣が多かった。

表1 団体内訳

団 体	団体数	回 数	主 な テー マ
計	52	261	
市 町 村	19	111	ウォーキング・転倒予防・介護予防
事 業 所	31	148	作業環境管理・ストレッチ・禁煙対策
学 校	2	2	生活習慣病予防

表2 職種別内訳

職 種	地域部門	産業部門	学校部門	回
計	111	148	2	
保 健 師	4	56	0	
管 理 栄 養 士	4	9	2	
健 康 運 動 指 導 士	103	45	0	
労働衛生コンサルタント	0	38	0	

6. 諸催事への協力

市町村の「健康まつり」や事業所の「健康づくり活動」におけるヘルスアップ事業・禁煙支援といった個別健康教育への協力が中心となっている。

平成18年度は、8団体100回と前年度を大幅に上回る回数（前年度11団体31回）となった。市町村主催による催事への協力が大きな伸びを示した。

表 団体内訳

団 体	団体数	回 数	主 な 内 容
計	8	100	
市 町 村	3	67	ヘルスアップ事業・禁煙支援
事 業 所	5	33	元気カー・体力測定・禁煙支援・体組成測定

7. 乳房自己検診法指導

平成18年度、乳がん検診の待ち時間等を利用して乳房の自己検診法を、5団体53回にわたり指導した。乳房模型を用いてシコリに触れて体験させ、定期的（月1回）な自己検診が乳がんの早期発見に繋がることを受診者に広く啓発した。

8. 健康げんき倶楽部

会員制のヘルスサポートシステムとなっており、健康度評価・血液検査後、保健師・管理栄養士・健康運動指導士による健康づくりを全面的にサポートする目的で平成17年9月に開設した。会員は、トレーニング施設「気良楽（きらら）」を利用できる。平成19年11月現在で 会員数145人となっている。

9. 教材貸出し

当協会では、学校向け、一般向け、事業所向けと各種様々な内容のビデオ・CDとヘルスパネル・アルミパネルを保有している。平成18年度の各種イベント等への貸出しは、ビデオ・CD55件、パネル25件であった。

●主な貸出し教材

【ビデオ・CD】

「VDT症候群の予防と対策」
「わたしたちの生活習慣病シリーズ」
「健康なからだをつくる食事」

【ヘルスパネル】

「健康と食生活」
「健康と喫煙」
「骨粗鬆症」

表 団体内訳

団 体	ビデオ・CD	パネル
計	55	25
市町村	0	10
事業所	15	5
学 校	40	10

●教材頒布

健康手帖 0冊
結核図書 654冊
その他 20冊
エクササイズボール 9個

結核予防

当協会は、財団法人結核予防会の岩手県支部として結核予防に関する各種事業を展開している。56年間にわたり結核対策の基礎となってきた結核予防法は、2007（平成19）年4月の法改正により感染症予防法へ統合された。長年にわたる結核対策の成果により、日本の結核罹患状況は大きく改善された。しかし、結核に対する関心の低下や罹患者の高齢化など、結核に関する問題は複雑化や質的变化の様相を呈している。そのためにも正しい知識を持つことが必要であり、一層の普及・啓発に努めていきたい。

1. 検診事業

部門別事業報告（学校保健・地域保健・産業保健）に記載

2. 複十字シール運動の展開

複十字シール運動は結核対策事業資金造成のための募金活動である。当協会ではNPO法人岩手県地域婦人団体協議会と共同で運動を展開している。

■運動期間：平成18年8月1日～12月31日

■後援：岩手県、岩手県議会、岩手県市長会、岩手県市議会議長会、岩手県町村議会議長会、岩手県保健所長会、岩手県教育委員会、岩手県PTA連合会、岩手県医師会、岩手県歯科医師会、岩手県薬剤師会、岩手県看護協会、岩手県放射線技師会、岩手県臨床衛生検査技師会、JA岩手県五連（JA岩手県中央会、JA岩手県信連、JA岩手県厚生連、JA全農いわて、JA共済連岩手）、岩手県国民健康保険団体連合会、岩手労働基準協会、岩手日報社、IBC岩手放送、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、NHK盛岡放送局、盛岡中央郵便局

■実績：大型シール 576枚（ 556枚）
小型シール 28,429枚（ 29,621枚）
募金総額 3,697,835円（4,402,392円）
内岩手県地域婦人団体協議会の実績 2,726,000円（2,890,000円） ※（ ）は平成17年度

3. 普及啓発、広報活動

(1) 結核予防週間（9月24日～30日）における活動

■街頭キャンペーン

名称：盛岡市健康づくりのつどい

日時：平成18年9月30日（土）

場所：プラザおでって（盛岡市）・ホットライン肴町（盛岡市）

主催：盛岡市

協力：NPO法人岩手県地域婦人団体協議会、盛岡市地域女性団体協議会

内容：複十字シール募金、普及啓発グッズ（パンフレット、ポケットティッシュ・メモ帳・風船等）の配布、パネル・ポスター展示、ぬりえ・ペーパークラフト、大型モニターによるビデオ上映

■新聞広告による普及啓発

期間：平成18年9月23日（土）

媒体：岩手日報朝刊 県内総合面

内容：結核予防週間告知、前年度シール募金額報告、結核の知識

(2) ポスター・チラシ等の配布

場所：市町村、教育委員会、保健所、県立病院、公共施設など

(3) 広報誌の配布

「健康いわて」（第228号～第233号）隔月 3,300部発行

「複十字」（No.309～314） 各月 400部発行

4. 各種会議、研修事業

会議・研修名	開催日	開催地	参加人数
結核予防会ネットワーク事業担当者会議	平成18年5月9日～10日	東京	1
臨時結核予防会全国支部事務連絡会議	7月31日	東京	2
第10回結核予防会マンモグラフィ講習会	8月4日～6日	東京	1
結核予防会健康支援者養成研修会	8月17日～20日	東京	1
結核予防会放射線学科研修夏期コース	8月23日～25日	東京	1
結核予防会健康支援者養成研修会	8月31日～9月3日	東京	1
結核予防会東北・北海道ブロック会議	9月7日	札幌	3
東北地区結核予防会婦人団体幹部研修会	11月9日	青森	3
第28回結核予防会事務職員セミナー	12月18日～20日	東京	1
結核予防会胸部検診対策委員会フィルム評価会	12月21日～22日	東京	1
結核予防会「特定健診・特定保健指導」戦略会議	平成19年2月5日～6日	東京	1
結核予防会全国支部事務局協議会総会	3月7日	東京	1
結核予防会国際研修視察旅行打合せ会	3月8日	東京	2
結核予防会全国支部事務局長研修会並びに全国支部事務連絡会議	3月8日	東京	2
第58回結核予防全国大会	3月27日～28日	岡山	3

諸行事

1. 理事会、評議員会、監事会等の開催

■理事会

- ・第1回理事会
会長の選任、専務理事及び常務理事の選任について審議、議決された。開催日：平成18年4月21日
- ・第2回理事会
平成17年度事業報告、平成17年度決算報告、常勤役員（常務理事）報酬、平成18年度補正予算（案）について審議、議決された。開催日：平成18年6月15日
- ・第3回理事会
平成18年度上半期定期監査について報告された。平成19年度事業計画（案）、平成19年度収支予算（案）、評議員の推薦について審議、議決された。開催日：平成19年3月22日

■評議員会

- ・第1回評議員会
平成17年度事業報告、平成17年度決算報告、平成18年度補正予算（案）について審議された。開催日：平成18年6月13日
- ・第2回評議員会
平成19年度事業計画（案）、平成19年度収支予算（案）について審議された。開催日：平成19年3月20日

■監事会

- ・第1回監事会
平成17年度事業報告書、決算報告書にや法人の財産状況、理事の業務執行状況について監査を受け、適正かつ不備がないことを認められた。開催日：平成18年5月26日
- ・第2回監事会
平成18年度上半期予算執行状況、事業進捗状況について定期監査を受け、適正かつ順調であることを認められた。また、法人の財産の状況、理事の業務執行状況についても、不備がないことを認められた。開催日：平成18年11月24日

■運営委員会

- ・第1回運営委員会
組織運営、平成18年度第1回監事会について報告された。平成18年度第1回評議員会、第2回理事会の内容について協議された。開催日：平成18年6月5日

2. 学術専門委員会、小委員会の開催

■学術専門委員会

学校保健専門委員会	平成18年5月19日
先天性代謝異常検査等専門委員会	6月8日
ウイルス肝炎対策専門委員会	11月11日
循環器系検診専門委員会	11月14日
消化器系検診専門委員会	11月27日
眼底検診専門委員会	平成19年2月1日
乳がん検診専門委員会	3月14日
呼吸器系検診専門委員会	3月29日

■小委員会

CR、CT検診小委員会	平成18年4月19日
骨粗鬆症予防検診小委員会	4月28日
心臓検診小委員会	3月9日

3. 関係者、関係機関との打ち合わせ、懇談会等

■第7回HCVキャリアへの紹介医療機関担当者打合せ会	平成18年12月1日
■県南センター胃部読影検討会	2月9日
■CR検診実施市町村意見交換会	2月26日
■胃部読影検討委員会	3月15日
■呼吸器系検診症例検討会	3月29日
■県南センター医師懇談会	3月30日

4. 関係機関担当者会議の開催

■平成18年度市町村・JA健康管理担当部課長会議

・平成18年10月27日、盛岡市にて開催し、参加人数82名であった。

行政報告：「岩手県の介護予防の取組み」

岩手県保健福祉部 長寿社会課

主査 千田 邦博

事業説明：平成18年度生活機能評価の実施状況（平成18年4月～9月）

平成19年度事業計画について

平成19年度地域保健事業計画骨子（案）

平成19年度地域保健健診・検査料金（案）

特定健診・特定保健指導の実施体制について

胸部デジタル検診の実施体制について

大腸がん検診の実施体制について

報告事項：平成17年度活動報告について

協議事項：平成19年度事業計画について

講演：「医療制度構造改革における生活習慣病対策について」

厚生労働省保険局総務課医療費適正化対策推進室

室長補佐 大村 良平

■平成18年度学校保健連絡会議

・平成18年11月27日、盛岡市にて開催し、参加人数146名であった。

報告事項：平成17年度学校保健分野健診・検査実施状況報告

協議事項：平成19年度学校保健事業計画骨子（案）

平成19年度健診・検査料金（案）

講演：「豊かなコミュニケーションを築くために」

トータル・カウンセリング・スクール

金藤 晃一

■平成18年度保健活動検討会

・平成19年2月26日、盛岡市にて開催し、参加人数144名であった。

事業報告：平成17年度健診結果・追跡調査結果

平成18年度健診・検査実施状況

事業計画：平成19年度事業：地域保健事業計画骨子（案）・変更事項について

事業説明：デジタル撮影システムについて
乳房超音波検査について
特定保健指導の実施体制について

行政報告：『がん対策基本法について』

『特定健診・特定保健指導の進捗状況』

講演：「唾液検査を活用した歯周病検診システム」

特別講演：「平成20年の制度改革を見据えた保健事業の新たな展開に向けて」

岩手県保健福祉部長寿社会課

主査 琵琶坂 和江

岩手県保健福祉部保健衛生課

主任 互野 裕子

社団法人岩手県歯科医師会

専務理事 佐藤 保

国立循環器病センター予防検診部

部長 岡山 明

5. 研修会等の開催

■VDT作業管理者研修会

・平成18年6月15日、盛岡市にて開催し、参加人数18名であった。

「管理者の役割と心構え」「労働衛生管理の概論」

財団法人岩手県予防医学協会

高橋 美枝子

「VDT作業の健康への影響と健康管理」

岩手大学 保健管理センター教授

立身 政信

「作業環境管理・作業管理」「VDT機器及び作業環境の維持管理」

財団法人岩手県予防医学協会

大久保 伸子

「VDT作業従事者に対する労働衛生教育の方法」

財団法人岩手県予防医学協会

小形 真紀子

■教育セミナー

・平成18年8月11日、盛岡市にて開催し、参加人数35名であった。

「セルフエフィカシーの（自己効力感）の理論と実際」

自治医科大学看護学部

教授 高村 寿子

■第22回健康教育研究会

・平成18年10月24日、盛岡市にて開催し、参加人数69名であった。

「プロセス評価の基礎知識」

「ものさし」づくりの方法

社団法人地域医療振興協会

ヘルスプロモーション研究センター

岩永 俊博

■市民健康講座

・「守ろう わたしの肝臓 家族の肝臓」

平成18年11月11日、盛岡市にて開催し、参加人数131名であった。

基調講演：「肝炎ウイルス検診」現状と今後の展望 広島大学大学院医歯薬学総合研究科

教授 吉澤 浩司

パネルディスカッション：「肝がん予防の問題点

－検診から治療への橋渡しをどうするか－」

- ・「乳がんを負けないために」

平成19年3月17日、奥州市にて開催し、参加人数270名であった。

講演：「乳がん検診と薬物療法について」

岩手県立胆沢病院 乳腺外科

竹花 教

■医用超音波基礎講習会

- ・平成19年1月6日、盛岡市にて開催し、参加人数43名であった。

■基本健康診査従事者講習会

- ・平成19年2月15日、盛岡市にて開催し、参加人数20名であった。

実習：腹部超音波検査の精度向上に向けての取組み

財団法人岩手県予防医学協会

米澤 慎悦

腹部超音波検査について

財団法人岩手県予防医学協会

太田 睦子 佐藤 務 半田 有希

講義：消化器疾患の最近の動向 ～胆道系超音波検査を中心に～

やまだ胃腸科内科クリニック

院長 山田 宏之

6. 研究事業

■岩手県北地区コホート研究への参加

目的：地域発症登録、人口動態データ、介護保険情報を利用して各疾患の発症率および死亡率の把握、リスクに関する検討を行う。

対象：岩手県北3保険医療圏の基本健康診査受診者中研究に同意した26,477名

方法：ベースライン調査（平成14年～16年度） 追跡調査（平成14～最低5年間以上）

7. 普及啓発および広報活動（再掲）

■普及啓発

- ・結核予防週間における街頭キャンペーン、新聞広告掲載、市町村健康まつりへの協力
- ・ポスター・チラシ等の配布

■広報活動

- ・広報誌の配布

『健康いわて』第228号～第233号 隔月3,300部

(財団法人岩手県予防医学協会発行)

『複十字』No.309～314 隔月400部

(財団法人結核予防会発行)

『健康の輪』年3回110部

(全国結核予防婦人団体連絡協議会発行)

8. 中国地域保健農村生活改善研修訪日団の受入

■平成18年11月13日～17日の5日間にわたり、次のような内容で訪日団の視察研修を受け入れた。

- ・岩手県庁訪問

知事表敬訪問し、岩手県の保健行政について研修、岩手県農林水産部で農業技術・農村生活改善等の概要研修

- ・西和賀町訪問

町の保健行政について研修、農業、農村生活改善活動について研修、沢内病院見学

- ・ 矢巾町立德田小学校訪問
学校における保健衛生カリキュラムについて研修、 授業参観、児童との給食、懇談
- ・ 農協、農家訪問
岩手中央農協訪問、矢巾町農家訪問、農家の概要及び日常生活について研修
- ・ 健診会場見学
労働基準協会盛岡支部の集合健診見学
- ・ 岩手県予防医学協会訪問

9. 職員研修

■内部研修会の実施		参加人数
交通安全講習会		50名
安全運転講習会（冬道の運転）		244名
人事考課制度に係る被評価者訓練		219名
人事考課制度に係る評価者訓練		64名
救急蘇生法講習会		155名
第28回研究発表会		
■外部研修会への参加		
・ 主催別内訳	実施回数	参加人数
（財）予防医学事業中央会関係研修会	9回	30名
（財）結核予防会関係研修会	10回	14名
（社）全国労働衛生団体連合会関係研修会	10回	18名
（社）日本作業環境測定協会関係研修会	2回	6名
その他	131回	169名
・ 職種別内訳	実施回数	参加人数
医師関係	10回	11名
保健師関係	15回	20名
臨床検査技師関係	40回	60名
放射線技師関係	16回	20名
作業環境測定士関係	3回	7名
看護師関係	16回	23名
栄養士関係	2回	3名
事務関係	60回	93名

10. 研究発表

- 第11回岩手細胞・組織検討会
『子宮頸部腺異型性の1例』
平成18年4月7日（盛岡市）
川端 寿行
- 第31回日本超音波検査学会
『人間ドックを契機に発見された胃粘液腫の1例』
平成18年5月13日～14日（奈良市）
佐藤 務

- 日本作業環境測定協会東北支部事例研究発表会
『ハイポリウムエアサンプラーによる併行測定時間について』 平成18年6月23日（仙台市）
小山 正範
- 第44回日本消化器がん検診学会東北地方会
『一日人間ドックにおける膀胱超音波検査成績』 平成18年7月15日（仙台市）
瀬川 主子
- 第65回日本産業衛生学会東北地方会
『管理濃度改正に伴う作業環境管理の現状について』 平成18年7月21日～22日（盛岡市）
関向 和明
- 第10回日本肝臓学会
『X県の養豚地区および非養豚地区住民におけるH E V抗体の頻度とその免疫学的背景の比較検討』 平成18年10月11日～12日（札幌市）
佐々木 純子
- 第11回岩手県放射線技師会学術大会
『乳房撮影における被検者の心理とその配慮』 平成18年10月29日（盛岡市）
小保内 千里
- 第53回日本臨床検査医学会
『検診により発見されたH C Vキャリアの医療機関におけるフォローアップ状況について』 平成18年11月9日～11日（弘前市）
小山 富子
『非アルコール性脂肪肝はメタボリックシンドローム発症に関わる因子となりうる』 折坂 美知子
- 第27回作業環境測定研究発表会
『管理濃度改正に伴う作業環境管理の現状について』 平成18年11月15日～17日（仙台市）
関向 和明
- 第7回アジア予防歯科学会
『Periodontal Screening by Medical Laboratory Tests with Salvia Samples ; Part I : Screening Potential of the Salivary Tests』 平成18年11月29日～12月1日（岡山市）
折坂 美知子
- 第23回日本臨床細胞学会岩手支部総会
『当協会における子宮頸がん検診の現状について』 平成19年2月3日（盛岡市）
金田一 徹
- 岩手県放射線技師会画像研修会
『レディースドックの紹介と乳房撮影での注意点』 平成19年2月3日～4日（八幡平市）
本田 久美
- 第18回岩手公衆衛生学会
『経時的体重変化に伴う高感度C R P値の変動』 平成19年2月10日（盛岡市）
斗成 陽子
『非アルコール性脂肪肝有所見者におけるメタボリックシンドロームの発症状』 折坂 美知子
『岩手県における新改築建設、住宅の室内空気中の化学物質濃度について』 清水 誠一郎
- 第41回予防医学技術研究集会
『唾液検査による歯周病スクリーニングの検討』 平成19年2月22日～23日（新潟市）
折坂 美知子
『一日人間ドックオプションとして導入したホルター心電図について』 高橋 恵美
『学校心臓検診調査票の変更についての検討』 佐々木 裕佳
『甲状腺超音波検査による腫瘍性病変の精査対象所見の検討』 三浦 由美

『Webによる眼底検査読影システムの構築』 昆 文夫
『メタボリックシンドロームの抽出 ―腹囲とBMI―』 金野 はるみ
『尿検査処理システムの導入について』 藤原 素子
『小児生活習慣病予防健診結果からメタボリックシンドローム発症因子の動向を探る』 高橋 ゆかり

- アメリカ心臓病学会 平成19年2月28日～3月3日（米国 オーランド）
『CRP levels are correspondingly increased with body weight gain and decreased with body weight loss during two years in 3,620 healthy Japanese adults』 斗成 陽子
- 東北・北海道医師会共同利用施設連絡協議会（東北医師会連合会） 平成19年3月4日（仙台市）
『一日人間ドックオプションとして導入したホルター心電図について』 高橋 恵美
- 第26回岩手糖尿病研究会 平成19年3月10日（盛岡市）
『小、中、高校生および成人におけるメタボリックシンドローム出現率の比較』 高橋 ゆかり
- 国際歯科研 平成19年3月21日～24日（米国 ニューオーリンズ）
『Periodontal Mass Screening by Medical Laboratory Tests with Salvia Samples』 折坂 美知子
- 第17回アジア太平洋肝臓学会 平成19年3月27日～30日（京都市）
『Seroprevalence of Anti-HEV and Epidemiological Features in Hog Raising Area and Non Hog Raising Area』 佐々木 純子

11. 事業年報の発行

平成17年度事業年報 Vol.35 2,200部

12. 各種表彰の受賞

- (財)予防医学事業中央会関係
10月20日、予防医学事業推進全国大会の席上で米澤慎悦、高橋光男が奨励賞を受賞。
- (社)全国労働衛生団体連合会関係
5月31日、平成18年度全衛連通常総会の席上で桜井則彰が功績賞を受賞。
11月15日、全衛連運営研究協議会の席上で関向和明、本堂典夫が奨励賞を受賞。
- (社)日本作業環境測定協会関係
5月26日、通常総会の席上で精度管理優良賞を受賞。
- 全国THP推進協議会関係
平成18年度全国THP推進協議会功労賞を三沢和則が受賞。
- その他
11月29日～12月1日、アジア予防歯科学会の発表演題で学会賞を受賞。